髄液播種を認めた Anaplastic ganglioglioma の細胞学的検討

山梨大学医学部附属病院病理部¹⁾,

山梨大学医学部附属病院人体病理診断学²⁾

○坂本直子(CT)¹⁾, 弓納持勉(CT)¹⁾, 岩佐敏(MD)¹⁾, 石井喜雄(CT)¹⁾
中澤久美子(CT)¹⁾, 村田晋一(MD)²⁾, 加藤良平(MD)²⁾

【はじめに】今回我々は、髄液中に神経細胞様の異型細胞が多数出現した Anaplastic ganglioglioma の症例を経験したので、報告する。

【症例】35歳、男性。左側頭葉内側にリング状造影所見が出現し、脳血管撮影にて腫瘍陰影を認め、悪性膠芽腫の臨床診断にて腫瘍摘出術が施行された。その2ヶ月後、左側頭葉後方に再発を認めたため再手術が行われた。再手術後2ヶ月で髄液播種を認めた。

【組織診所見】異型神経細胞および異型グリア細胞の増生からなる充実性腫瘍であり、細胞密度が高く、小石灰化像、血管の増加および糸球体様の内皮細胞増生が認められ、核分裂像が散見された。再発時の手術標本では初回と比べ、神経細胞様の腫瘍細胞の異型性がより高度に認められた。

【細胞診所見】Pap染色では、大型の核を有し細胞質が淡く紡錘型および多角形を呈する異型細胞と、それより小型で類円形、一部紡錘型の異型細胞が孤立散在性に認められた。前者はN/C比が小さく、クロマチンの増量は軽度であった。それに対し後者はN/C比が高く、クロマチンの増量が著明であった。両者共に核形が不整なものが多く、大型の核小体も見られた。

【考察】細胞診で認められた2種類の異型細胞は組織との対比から、大型の異型細胞は神経細胞由来、小型の異型細胞はグリア細胞由来の腫瘍細胞と考えられた。anaplastic ganglioglioma は髄液播種の際にも異型グリア細胞が見られることが多く、本症例の様に神経細胞様の異型細胞が髄液中に出現することは稀と思われた。